

強制わいせつ非行少年の TAT 反応の特徴に関する一考察

齊 藤 文 夫

A Consideration on the Characteristics of TAT Responses Produced by Juvenile Offenders Who Had Committed Indecent Assault

Fumio SAITO

要 約

少年による性犯罪は、その行為態様はかなり倒錯的ではあるが、必ずしも倒錯的な性嗜好に執着しているわけではなく、人格発達の偏りや心理力動の歪みから、倒錯的な性行動に走った事例が多い。本稿では、強制わいせつを働いた非行少年5例を取り上げ、TATを用いて、性非行の心理を探った。性非行に結びつく人格の偏りや心理力動の歪みとしては、早幼児期における過酷な母子関係が関係すると思われる基底不安や女性への敵意、男らしさの確認、性別同一性の未確立やそれに伴う不安、支配的な母親からの自立のあがき、支配的な父親像との同一視、攻撃的な男性像の取り入れ、未分化な攻撃衝動と性衝動の結びつき、性衝動の昂進に伴う罪悪感と自罰欲求、性愛的な幻想を伴う肥大した自己像、などが考えられる。TAT 反応を事例研究的に吟味することを通して、そうしたさまざまな問題性についての理解が深められた。

キーワード：強制わいせつ、非行少年、心理査定、TAT

第1節 はじめに

強制わいせつ行為は、被害者及びその関係者に深刻な心理的打撃を与え、社会的にも強く非難されるべき犯罪である。最近のわが国における犯罪統計を見ると、昭和61（1986）年ころから、強制わいせつ事犯は漸増傾向を示している。平成7（1995）年においては、3,644件の強制わいせつ事犯が発生（警察認知）し、1,644人が検挙（検察庁の新規受理）されており、うち605人が少年であった（法務総合研究所、1996）。

警察、司法、矯正などの分野で心理臨床的な仕事に携わる実務家たちは、これら性犯罪者の多くが、何らかの心理的な問題性を抱えていることを指摘している（清水・山岡、1974；大川、1975；堀内、1991）。筆者も、矯正臨床の現場でさまざまな性犯罪者らを調査し、かれらの人格上の問題点を探ってきた。

本稿においては、強制わいせつ行為を働いた非行少年に焦点をあて、かれらの人格上の問題点を探ってみたい。筆者は、これまで、犯罪・非行臨床の分野で、さまざまにTATを活用してきた（齊藤、1979；1995a；1995b；1997）。本稿においても、かれらの内面の問題性を探るための道具として、TATを用いる。TAT反応を、筆者なりの着眼点にもとづいて読み解くことによって、この種の性犯罪を犯す非行少年らの内面の世界についての理解を深め、かれらの人格上の問題性や心理力動の歪みを多少とも明らかにしてみたいと思う。

ところで、少年による強制わいせつ事犯について、一言だけ述べておきたい。かれらの行為は、幼児を対象とする場合が多く、行為そのものはペドフィリア的・倒錯的なものではある。しかし、筆者の経験からいえば、かれらは成人のペドフィリアとは異なり、倒錯的な性嗜好を身につけていることはごく少ない。むしろ、養育環境上の負因、あるいは人格発達上のつまずきや不適応から、支配しやすい幼児を対象として性非行に走る事例が圧倒的に多い。ここで取り上げる事例も、そうした問題性を抱えていると思われる事例である。本稿における筆者の意図は、それら各事例の問題性の差異をTAT反応を通して読みとろうとすることにある。

第2節 目的及び方法

TAT反応を通して、強制わいせつ行為を犯した非行少年らの内面の心理力動や人格上の問題点を事例研究的に考察する。そうした事例研究を通して、TATという心理検査が、非行少年の内面を理解する上で有用な用具であることを示したい。

周知のように、TATにおいては、ロールシャッハ・テストにおける片口法やエクスナー法のような一定の方式が確立していない。ここでは、筆者が性非行事例のTAT反応を読み込む際に有用であると思う着眼点を掲げ、それらに基づいて、事例ごとにTAT反応を吟味していく。

本稿では、TAT を解釈する際の着眼点として、(1) バイオリンへの取組み、(2) 自己像、(3) 家族・家庭像、(4) 父親像・男性像、(5) 母親像・女性像、(6) 性愛的主題・異性関係、(7) その他の特徴、の 7 点を取り上げることとする。いずれも、性非行の心理を理解する上で、有用と思われる着眼点である。

使用図版は、マッレー版 TAT である。施行方法は、いずれも少年鑑別所において、個別法で施行された。使用した図版や枚数には、事例ごとに異同がある。ここでは、紙幅の制約があるので、各事例の TAT 反応の全部を掲記しない。主要図版として、1, 2, 4, 6 BM, 7 BM, 8 BM, 10, 11, 13 B, 13 MF, 19, 20, の 12 図版を取り上げ、これら主要図版における反応だけを要約して掲げる。

考察される事例は、5 例の強制わいせつ事犯である。いずれも男子で、少年鑑別所に収容され、鑑別を受けた事例である。各事例の非行態様をまとめると、表 2-1 のごとくである。

表 2-1 本研究における強制わいせつ事例の概要

事例番号 (年齢)	本件非行名	被害者の 年齢・性別	本 件 非 行 の 態 様
事例 1 (16 歳)	ぐ犯	小学生男女	近隣小学校の低学年児童を言葉巧みに誘い出し、公園などにおいて、男児の陰茎を口淫したり、女児の陰部を弄ぶなどした。
事例 2 (16 歳)	強制わいせつ	8 歳・女児	言葉巧みにショッピングセンター内の便所に誘い込み、陰部を弄ぶなどした。
事例 3 (17 歳)	強制わいせつ	10 歳・女児	言葉巧みに自宅アパート内に誘い込み、女児の陰部を弄ぶなどしつつ、畳の上に射精した。
事例 4 (17 歳)	強制わいせつ 未遂	13 歳・女子	路上にて、女子中学生に抱きつき、馬乗りになってスカートをまくり、下着を脱がせようとしたが、通行人に見つかり、未遂に終わった。
事例 5 (18 歳)	強制わいせつ 住居侵入	18 歳・女子	シンナー仲間であった女子の自宅に侵入し、「服を脱げ」と脅迫するなどして、わいせつ行為をしようとした。

第 3 節 事例ごとの考察

事例 1 16 歳・男子

(1) 本件非行：虞犯（事犯としては強制わいせつ事件であるが、虞犯として立件された）

近隣の小学校低学年の児童（男女）を言葉巧みに誘い、公園又は自宅において、男児の陰茎の口淫し、あるいは女児の陰部を手指で触るなどの行為を反復していた。なお、射精は伴わなかったという。

(2) 知能：IQ = 60

(3) 精神障害：軽度精神薄弱と判定される。

(4) TAT 反応の要約：表 3-1 のとおり。

表3-1 事例1のTAT反応の要約

図 版	T A T 反 応 の 要 約
1 図	バイオリンが弾けなくて、悩んでいる。 将来は、天才バイオリニストになりたい。
2 図	淋しそうな、この世の終わりという顔をしている。 3人は、他人どうし。
4 図	(施行せず)
6 BM 図	けんかをした後、ふたりともむすっとしている夫婦。
7 BM 図	電気を暗くした部屋で、ふたりで悪事の密談をしている。
8 BM 図	必死に手術している。手術は成功する。
10 図	結婚の約束をした二人の密会。 両親は、二人の結婚に反対だが、結局は了解する。
11 図	滝の上に竜がいる。人間が竜に食べられてしまう。
13 B 図	真っ暗な家の中で、淋しくだれかを待っている。 待ちくたびれて、死んでしまう。
13 MF 図	女を男が絞め殺す。男は逃亡するが、最後は警察に捕まる。
19 図	人食い女が棲む家。子どもを食べようと待ちかまえている。
20 図	真っ暗な空の下、クリスマスと共に祝う相手を捜している。

(考察)

(1) バイオリンへの取組み

「バイオリンが弾けなくて、悩んでいる」という空想からは、自己の能力に関する自信欠如感、無力感、不全感がうかがわれる。「天才バイオリニストになりたい」という空想は、そうした無力感や不全感を、幼児的・非現実的万能感によって、否認しようとしていることを示唆する。

(2) 自己像

自己像と結びついていると思われる反応はいくつもあるが、主なものは、以下のとおりである。

ア) バイオリンが弾けなくて悩んでいる少年(1図)

イ) 天才バイオリニストになりたい少年(1図)

ウ) 淋しそうな、何か話したような顔をした少女(2図)

エ) 真っ暗な家で、ひとり淋しくだれかを待つ少年(13B図)

オ) だれかを待ちくたびれて死んでしまう少年(13B図)

カ) クリスマスを共に祝う相手を探している男(20図)

こうした反応からは、対人関係能力が拙劣で、孤独感や寂寥感を抱き、自分の相手をしてくれるだれかを強く求めている少年の心がうかがわれる。こうした強い孤独感、寂寥感が、本事例の特徴である。

付言すれば、2図における3人を全く関係づけることができず、8BM図における「変な顔をした前の人」と「必死で手術している後ろの先生」との関連づけに失敗していることも、事例1の対人関係能力の乏しさを示唆する。

特異な自己像として、

ア) 竜に食べられてしまう人間 (11 図)

イ) 人食い女に食べられそうな子ども (19 図)

の 2 つが注目される。竜や人食い女に食べられてしまうという特異な空想は、おそらくは、母親から自分という存在を受け入れてもらえず、むしろ食い殺される、抹殺されるといった不安を抱いていることを暗示しているのであろう。これらは、ユング心理学的な観点からは、太母（グレート・マザー）の象徴とも考えられよう。

(3) 家族・家庭像

家族としてのまとまりがなく、暗い家庭であるようだ。家庭内でも、受け入れられず、拒否的に扱われているようである。そのことは、次のような反応から、うかがわれる。

ア) この世の終わりという暗い顔をした 3 人の他人 (2 図)

イ) 電気を暗くした部屋 (7 BM 図)

ウ) 子どもの結婚に反対する両親 (10 図)

エ) 家の中が真っ暗だ (13 B 図)

オ) 人食い女の棲む家 (19 図)

6 BM 図においては、夫婦げんかが語られ、13 MF 図では、浮気をする女と、嫉妬からその女を殺害する男が登場する。これらの着想は、事例 1 の家庭における両親の夫婦関係の悪さと関連しているようである。

(4) 父親・男性像

「父」や「息子」といったことばが、全く用いられていない。父親との結びつきが希薄であることがうかがわれる。

7 BM 図におけるふたりの男性について「電気を暗くした部屋で、悪事の密談をしている」という空想が、父・息子関係を反映しているのかもしれない。父親が、社会のルールを体現する権威者ではなく、むしろ反社会的な役割モデルとなっているのであろうか。13 MF 図における「女を絞殺し、逃亡する男」という空想も、この事例の内面にある父親（男性）像の悪さを推測させる。

(5) 母親・女性像

ア) 竜が人間を食べてしまう (11 図)

イ) 家の中には、人食い女がいる (19 図)

これらの反応から、少年を食いつぶす恐ろしげな母親像が連想され、母親との関係が極めて悪いことが推察される。早幼児期における母子関係に何らかの深刻な問題があったのではないだろうか。

(6) 性愛的主題・異性関係

男女の結びつきに関する空想はきわめて貧弱である。わずかに異性関係が語られている反応としては、

ア) 女が他の男と寝た。男はその女を絞殺する (13 MF 図)

というものがある。事例1は、異性との豊かな性的な関係を空想できるほどの発達段階に達していないのであろうと推測され、むしろ女性 (=母親) に対する潜在的な敵意が暗示されている。

(7) その他の特徴

省略。

事例2 16歳・男子

(1) 本件非行：強制わいせつ

8歳の女兒に対し、「お母さんから鍵を預かった」などと言葉巧みに申し向け、同女をショッピング・センター内の男子便所に誘い込み、「目を開けたら殺すぞ」と脅した上で、パンツを足首まで引きおろし、陰部を手指で弄んだ。

(2) 知能：IQ = 114

(3) 精神障害：認めない。

(4) TAT 反応の要約：表3-2のとおり。

表3-2 事例2のTAT反応の要約

図 版	T A T 反 応 の 要 約
1 図	父にバイオリンを贈られたが、弾く自信がなく、悩んでいる。 親からは「バイオリニストになれ」と、言われている。
2 図	本を持った女の人。畑仕事をする男の人。 ただ空を見ているおばさん。(3人の関係は語られない)
4 図	(施行せず)
6 BM 図	普通に生活していた親子。男は仕事か結婚かで親から離れることになったが、それを諦めて、おばあさんになった母親と暮らす。
7 BM 図	おじいさんと若い人が親子。普通の生活をしていたが、何かこまったことが起きて、どうしようかと相談している。
8 BM 図	健康な人が、交通事故か何かで、急に病院へ運ばれて、手術を受ける。手術が成功するかどうかは、五分五分だ。
10 図	彼と彼女がばったりと出会った。抱き合って、「これから、ふたりで生きていこう」と、うれしがっている。
11 図	崖崩れで、道が通れない。どこへ行くか分からない道に行く。でも、最終的には、町にたどり着く。
13 B 図	普通の生活をしていただけれど、戦争で、生活が一変する。 指をくわえて、悲しそうな顔をしている。
13 MF 図	昨夜のことは酔っぱらって覚えていない。目を覚ますと、見たこともない女の部屋にいたので、びっくりした。服を着て、家を出る。
19 図	普通の世界に住んでいても、もし突然死んだら、天国か地獄か、こんな分からない世界に行く。
20 図	まともな生活をしていなかった人が、暗い夜道を歩いている。 明るい電灯の下に出て、「こんな明るい生活を送れたらいいな」と思う。

(考察)

(1) バイオリンへの取組み

「バイオリンを父親から贈られた」、「親から、バイオリニストになれ、と言われている」と空想されており、「父親」や「親」が空想物語に導入されている。両親との心理的な結びつきがある程度保たれていることが示唆される。(ちなみに、事例 1 では、そうした導入人物が全く語られなかった。)

そうした親からの働きかけや期待に対し、少年は「バイオリンが弾けるかどうかと、悩んでいる」、「バイオリニストになる気がないので、悩んでいる」という。自信欠如的であり、親の期待や強制に対して拒否的であることがうかがわれる。

(2) 自己像

自己像と結びついていると思われる主な反応は、以下のとおりである。

ア) 父親からバイオリンを贈られた少年 (1 図)

イ) 親から「バイオリニストになれ」と言われるが、その気のない少年 (1 図)

ウ) 親から離れられず、母親と暮らす息子 (6 BM 図)

エ) 母さんから、人形みたいにかわいがられて育った子ども (7 GF 図)

オ) 母さんに期待されているが、そっぽを向いている子ども (7 GF 図)

カ) 小さいときから、暗闇で生活してきた人 (14 図)

キ) 大人になり、窓を開けてみて、目がくらむ人 (14 図)

これらの反応からは、家庭で過保護に育てられ、親に反発しつつも、自立できない少年の姿が推測される。

ク) 悩むことなく生きていたが、何かが降りかかって、泣いている人 (3 BM 図)

ケ) 何かこまったことに直面し、どうしようかと考えている若い人 (7 BM 図)

コ) 事故か何かで、突然、病院に運ばれ、手術を受ける人 (8 BM 図)

サ) 崖崩れに出会い、どこへ行くか分からない道に行く人 (11 図)

シ) 医学では治らない病気で寝込んでいる人 (12 M 図)

ス) 指をくわえて、悲しそうな顔をした、裸足の子ども (13 B 図)

セ) 事故か何かで、突然、わけの分からない世界に行く自分 (19 図)

ソ) 暗い夜道を歩く人 (20 図)

これらの反応は、わけも分からないままに、突然の思いがけない難局に直面し、当惑・混乱している少年の精神状況の反映であろう。

タ) 彼女とばったりと出会い、うれしがっている彼 (10 図)

チ) 大人になり、いきなり窓を明けて、広い世界を見る (14 図)

ツ) パッと明るい電灯の下に立つ人 (20 図)

これらの反応は、少年の心に何かしら新しい世界が開かれてきたことを示唆するようである。

(3) 家族・家庭像

「親子」という表現や、「お父さん」、「お母さん」ということばも出ている。(ちなみに、この種のことばは、事例1では全く見られなかったものである。) そうしたことばが語られることから、事例2においては、家族との心理的なつながりが一応は保たれていると考えられる。むしろ自立の道が見い出せず、親にかなり依存的になっているようである。

家族像と関係すると思われる反応は、次のようなものである。

- ア) 少年にバイオリンを贈る父 (1 図)
- イ) 子どもがバイオリニストになることを期待する親 (1 図)
- ウ) 親子で普通に生活していた (6 BM 図)
- エ) おじいさんと若い人は親子で、普通に生活していた (7 BM 図)
- オ) 親子で、これからどう生きていくか話し合っている (7 BM 図)
- カ) かわいがって育てられた娘とその母 (7 GF 図)

(4) 父親・男性像

- ア) 子どもにバイオリンを贈る父 (1 図)
- イ) こまったことがあり、親子で話し合っている (7 BM 図)
- ウ) 超能力者が登場し、病気の男性を治療する (12 M 図)

こうした反応からして、権威者としての父親像が、一応は内面化されていることがうかがわれる。

(5) 母親・女性像

6 BM 図で「母はもうおばあさんなので、男の人は仕事を諦め、一緒に暮らす」という。母・息子の依存的・共生的な関係を暗示するようである。

7 GF 図では、お母さんが子どもに「あなたをお人形さんのようにかわいがって育てたのよ。あなたもお人形のような赤ちゃんを生みなさい」と語りかけるが、子どもは「先のことなど分からない」として、「そっぽを向いている」という。期待を押しつける母親に対する反発や、おとなになることへの不安がうかがわれる。

(6) 性愛的主題・異性関係

10 図における男女について、「彼と彼女がばったりと出会って、これから二人で生きていこうと、喜んでいる」という。異性との結びつきを希求する心情がうかがわれる。

ところが、半裸の女性がベッドで寝ている 13 MF 図では、「昨夜のことは酔っぱらって、覚えていない。朝、起きてみると、見たこともない女性の部屋にいたので、男性はびっくりして、家を出る」という物語になっている。この図版では「昨夜のことは覚えていない」とか、「変な話だけれど…」といった言い訳めいた発言をしていることが注目される。おそらくは男女の性関係にまつわる連想が脳裡をかすめたものと推測されるが、異性との性愛的な関係をことばにして語ることは、まだまだむづかしかったようである。

(7) その他の特徴

「普通の生活」をしていたところ、突然、危機的な「何か」に直面するという物語が繰り返されている。また、ことばで表現できない「何か」や、人為を超えた大きな不可抗力が働く物語、あるいはわけの分からない世界に行ったり、暗闇から目もくらむ世界が開けるという物語もある。それらを列挙すると、

- ア) 悩むことなく普通に生きてきた。
→ 何かが降りかかって来て、泣き、悩み、考え込む (3 BM 図)
- イ) 健康な人だった。
→ 交通事故か何かで、突然、手術を受けることになる (8 BM 図)
- ウ) 崖崩れで道が通れなくなる。
→ どこへ行くのか分からない道に行く (11 図)
- カ) 医学では治らない病気になった。
→ 超能力者に治してもらおう (12 M 図)
- キ) 普通の生活をしていた。
→ 戦争で、生活が一変し、指をくわえて、悲しむ (13 B 図)
- ク) 暗闇で生活をしてきた。
→ いきなり窓を開けたら、何十倍、何百倍の世界が開けた (14 図)
- ケ) 普通の世界に住んでいた。
→ 突然、事故か何かで死んで、わけの分からない世界へ行く (19 図)
- セ) 暗い夜道を歩いている。
→ ぱっと明るい電灯の下に出る (20 図)

こうした反応は、事件を起こし、少年鑑別所に収容され、人生の危機に直面して途方にくれる少年の精神状況の反映でもあろう。しかし、悩むこともなく普通に生きてきたところに「突然降りかかってきた何か」や、交通事故や、崖崩れや、戦争や、「医学では治らない病気」は、少年の心に侵入してきた「性」を象徴しているようでもある。事例 2 の少年は、今まで、性の問題に悩むこともなく、子どもとして普通に生きてきた。ところが、思春期の訪れとともに、突然、目もくらむような、わけの分からない大きな世界が開けてきた。TAT 空想は、そうした内面の激変を反映しているのではなかろうか。

「これから自分はどうなっていくのか」(3 BM 図)、「手術が成功するかどうかは、五分五分だ」(8 BM 図)といった空想は、性を受け入れることに伴う不安と重なっているのであろう。「どこへ行くか分からない道に行く」(11 図)少年にとって、「天国か、地獄か知らないけれど、よく分からない世界はいやだ」、「今、住んでいる世界の方がいい」(19 図)といった発言は、子どもの世界にとどまりたいという気持ちとも重なっているのであろう。

事例3 17歳・男子

(1) 本件非行：強制わいせつ

10歳の女兒を言葉巧みに自宅アパートに誘い込み、同女の背後から胸を触ったり、パンツ内に手を入れて陰部を弄んだ。

なお、本人はそうした行為をしながら、自慰をして、畳に射精したという。被害幼児とは、以前から知り合っていた。本件当日、「いっしょに遊ぼう」と申し向けて、自宅に誘い込んだという。

(2) 知能：IQ＝81

(3) 精神障害：認めない。

(4) TAT 反応の要約：表3-3のとおり。

表3-3 事例3のTAT反応の要約

図 版	T A T 反 応 の 要 約
1 図	バイオリンが、いつまでも弾けず、悩んでいる自分。 目が見えなくても、ベートーベンみたいに有名人になりたい。
2 図	畑仕事に熱中する男。本を読もうとしている女。 妊娠して空を眺めているおばさん。(3人の関係は語られない)
4 図	恋人どうし。男は「おれと結婚してくれ」と告白する。 女も承諾し、ふたりはいつまでも幸せに暮らす。
6 BM 図	女主人は悪い病気で入院中の息子を必死で看病する。 息子は死に、女主人も後を追うように死ぬ。
7 BM 図	探偵と警官が、宝石どろぼうを捕まえる相談をしている。 兄と弟が、死んだお母さんの墓を作る相談をしている。
8 BM 図	戦争か、やくざのけんかか、西部劇。人が撃たれて、医者が弾を取ろうと手術している。もめごとが続いて、死者や負傷者が出る。
10 図	男女がお別れに抱き合っている。男はよその町へ金を稼ぎに行く。 男は、技術を身につける。
11 図	智恵と勇気で、竜を退治する。竜のまぶたから、「竜の涙」を取り出す。「竜の涙」は勇者の印で、悪魔や病気を追い払う力がある。
13 B 図	(施行せず)
13 MF 図	男と女がドライブに行き、ご飯を食べて、一夜を過ごす。 男は、メッセージと電話番号を書き置いて、出て行く。
19 図	大雪が降っているが、家の中では、家族がクリスマスをしている。 ぼくは、ここから出たいが、両親は「がまんしろ」と言う。
20 図	(施行せず)

(考察)

(1) バイオリンへの取組み

「お母さんにねだって、バイオリンのクラブへ入ったものの、いくらやっても、弾けない。悩んでいる僕の姿である」、「努力して、ベートーベンみたいな有名人になって、舞台へ出たい」といった空想は、自己顕示欲求・承認欲求と自信欠如感の並存する少年の内面の反映と見られよう。

(2) 自己像

自信欠如感、無能力感、不全感を抱く少年の分身が登場している。そうしたみじめな自己像の分身と思われる登場人物は、次のようなものである。

ア) いくらやっても、バイオリンを弾けず、悩みこんでいる僕（1 図）

イ) 目が見えない僕（1 図）

ウ) 悪い病気に感染し、死んでしまう息子（6 BM 図）

こうしたみじめな自己像の反面、空想的万能感を伴う誇大な自己像も語られている。それを示すものとして、

エ) ベートーベンみたいな有名人になって、舞台へ出たい僕（1 図）

オ) 智恵と勇気で竜を退治し、勇者の印である竜の涙を獲得する旅人（11 図）

といった空想がある。

カ) 「おれと結婚してくれ」と、女に告白する男（4 図）

キ) 技術を身につけ、金を稼ぐため、女と別れて、よその町へ行く男（10 図）

ク) 女と一夜を過ごし、メッセージを残して出て行く男（13 MF 図）

ケ) 「おとなになったら、家を出よう」と、考えている息子（19 図）

これらの空想からは、女性との結びつきを求め、男性としての自立を求める少年の気持ちがうかがわれる。

コ) 夜中に帰ってきて、食べ物を母に作ってもらう息子（5 図）

サ) 兄と弟が、母親の墓を作る相談をしている（7 BM 図）

こうした反応から、口唇期的な依存欲求と、母親からの自立や母親への潜在的な敵意が示唆される。

(3) 家族・家庭像

ア) お母さんと、夜遅く帰ってくる息子と、息子を叱るお父さん（5 図）

イ) 女主人と、召使い兼運転手の男と、病気の息子（6 BM 図）

ウ) 父親がちがう兄と弟と、死んだお母さん（7 BM 図）

エ) 恋人の男女と、その結婚を許すお父さん・お母さん（13 MF 図）

オ) クリスマスをしている 4 人家族（父母・息子・おばあさん）（19 図）

これらの空想から、家族との心のつながりは一応は保たれていると推測される。

(4) 父親・男性像

「畑仕事に熱中している男」（2 図）や、「召使いか、運転手をしている男」（6 BM 図）といった反応からは、仕事熱心な父親が想像される。また、これらの空想や「金を稼ぐために技術を身につける」といった着想から、職業への関心や社会人としての自立が、本事例の内心のテーマになっていることがうかがわれる。

ちなみに、こうした職業への言及は、本事例の特徴である。

(5) 母親・女性像

6 BM 図で登場する「女主人」は「病気の息子を懸命に看病し、息子の死後、その後を追って、死ぬ」という。支配性の強い母親らしく、母・息子の共生的な結びつきが想像される。

(6) 性愛的主題・異性関係

ア) 男は「結婚してくれ」と女に告白し、女はそれを承知する (4 図)

イ) お金を貯め、女のところへ戻ってくる男 (10 図)

ウ) 男女が、ドライブし、食事をし、一夜を共に過ごす (13 MF 図)

エ) 男は、女へのメッセージと電話番号を残して行く (13 MF 図)

こうした空想からは、異性とのつながりを求める少年の気持ちが強く示唆される。

(7) その他の特徴

省略。

事例 4 17 歳・男子

(1) 本件非行：強制わいせつ未遂

某日夕刻、路上にて女子中学生（当年 13 歳）に抱きつき、馬乗りになり、スカートをまくってブルマーを脱がせようとしたが、通行人に見つかり、未遂に終わった。（こうしたわいせつ行為の後、自宅に帰って、自慰をしていたという。）

なお、本件の約 1 年前から、路上にて、女子中学生をねらい、スカートめくりや抱きつきを反復していた。

(2) 知能：IQ = 85

(3) 精神障害：認めない。

(4) TAT 反応の要約：表 3-4 のとおり。

表 3-4 事例 4 の TAT 反応の要約

図 版	T A T 反 応 の 要 約
1 図	明日はバイオリンの発表会なのに、大事な弓と楽譜をなくした。 追い打ちをかけるように、両親が交通事故で入院する。
2 図	若いお嬢さんは、いじめの仕返しに、ある男性を殺した。 凶器のナイフを本の中に隠し、凶器を埋める場所を探している。 右手の女性は、犯行を見ていたが、警察に言わず、女を逃がす。 昔、その女性も、若い女と同じことをしたから、黙っていた。
4 図	(施行せず)
6 BM 図	仲の良い女性と男性が友人の葬式に来た。3 人は仲良しだった。 友人は、銀行強盗に銃で撃たれて、殺されたのだ。 男性と女性は、死んだ友人のために、結婚する。
7 BM 図	会議で、A 首相と B 首相が話し合っている。 C 首相が軍拡を提案したので、ふたりの首相は反対する。 でも、C 首相は戦争をしかけようとして、国内で軍拡を進める。
8 BM 図	アナウンサーが、大腸がんの手術の場面を実況放送している。
10 図	パーティの主催者の息子が、美人を見つけ、ダンスを踊っている。 1 年後に、ふたりは結婚する。

11 図	市民を弾圧する皇帝に対する市民の怒りが爆発した。 皇帝は、城の抜け道を使って、他国へ脱出しようとしている。 しかし、追手が来て、皇帝は殺される。
13 B 図	両親のいない少年は、皆から、のけ者にされている。 少年は、仲間にだまされているとも知らず、坐っている。
13 MF 図	(施行せず)
19 図	冬で、貧しい人々は食べ物を蓄え、洞穴で生活している。
20 図	男は、ある男を待っている。ある男は麻薬の現行犯で逮捕される。 待っている男にも、悪人が襲いかかるが、仲間の救援で助かる。

(考察)

(1) バイオリンへの取組み

この事例では、「少年は大事な弓をなくす」という。去勢不安と関係する空想であろうか。その上、「発表会の前日、両親が交通事故で入院する」という。両親への敵意、あるいは「見捨てられ不安」と結びついた着想であろうか。

(2) 自己像

ア いじめの仕返しに男性を殺す娘 (2 図)

イ 皆からのけ者にされ、皆にだまされている少年 (13 B 図)

ウ 親に内緒で、窓から出て行き、友達と遊ぶとする男 (14 図)

エ 親友とけんかをしたので学校へ行こうとしない娘 (7 GF 図)

いずれも、仲間とのつながりを求めながらも、受け入れてもらえず、怨恨めいた反発心を抱いていることを示唆しているようだ。

(3) 家族・家庭像

ア 少年がこまっている時、交通事故で入院する両親 (1 図)

イ 少年だけを残して、いなくなった (死んだ?) 両親 (13 B 図)

ウ 教育熱心で、子どもが友達と遊ぶことを許さない親 (14 図)

エ 洞穴で生活する貧しい人々 (19 図)

家族から見放されることにまつわる不安が示唆されるとともに、この家族自体が社会的に孤立しているようでもある。

(4) 父親・男性像

ア 軍事拡大を勧める C 首相 (7 BM 図)

イ 市民を弾圧し続け、最後には殺される皇帝 (11 図)

ウ 麻薬取引で逮捕される悪い男 (20 図)

これらから、高圧的・暴君的な父親像と、それに対する反発が推察される。

(5) 母親・女性像

母親像と結びついていると思われる空想は、「学校へ行かない娘を説得する母親」(7 GF 図)という部分だけである。

(6) 性愛的主題・異性関係

省略。

(7) その他の特徴

省略。

事例5 17歳・男子

(1) 本件非行：強制わいせつ，住居侵入

かねてからシンナー吸引仲間であった女友達（当年18歳）の家に午前3時ごろに赴き，無施錠の玄関から侵入，同女の居室に行き，就寝中の同女に対し「服を脱げ」などと脅迫し，わいせつ行為をしようとしたが，同女が騒ぎ，家人に発見された。

(2) 知能：IQ＝115

(3) 精神障害：認めない。

(4) TAT反応の要約：表3-5のとおり。

表3-5 事例5のTAT反応の要約

図 版	T A T 反 応 の 要 約
1 図	調子の悪いバイオリンでコンクールに出場し，失敗する。 次の大会に向けて練習するが，バイオリンが壊れてしまう。
2 図	勇敢な男が，ひとりで家建て，畑を耕し，馬を育てた。 女性が来て，それを本にして出版。本はベストセラーになる。
4 図	(施行せず)
6 BM 図	親子がいた。外国にいた息子が帰ると，年老いた母は死んでいた。 息子は，二度と，母の許を離れまいと決心する。
7 BM 図	大統領を決める会議。すごいけちが大統領になる。 その大統領は，皆に反対されるが，気にせず，楽しく暮らす。
8 BM 図	世界最初の開腹手術。麻酔も使わず，料理するように腹を切る。 少年は，それを知り，医学に興味を持ち，大病院の先生になる。
10 図	両親が離婚した。父に引き取られた私は，父の死後，兄と再会。 その後，母と兄と私（＝妹）は，楽しく暮らす。
11 図	きれいな滝があり，吊り橋がかかっていた。大地震が来た。 崖は崩れ，橋は落ち，人々が死んだ。 それ以来，地震のあった日には，亡霊が現れる。
13 B 図	少年が生まれるとともに，母は死に，父も既に死んでいた。 少年は親戚に預けられた。遊び仲間もなく，ひとりぼっちだ。
13 MF 図	なぜか死ぬことになり，僕は彼女に睡眠薬を飲ませて，殺した。 数分後，僕も彼女の後を追って死んだ。
19 図	これは，僕が子どものころに描いた絵です。 僕は，嫁さんと息子と娘がおり，皆で絵を見て，笑った。
20 図	僕は戦争に行った。戦争が終わった。 僕は，ひとりでたたずみ，身内を捜すのに苦労している。

(考察)

(1) バイオリンへの取り組み

この事例では「調子の悪いバイオリンが、結局、壊れてしまう」という。バイオリンが解決すべき課題の象徴であると考え、そうした課題そのものを否認していることが考えられる。

(2) 自己像

自己像と結びついていると思われる反応としては、次のものが指摘されよう。

ア) 家を建て、畑を耕し、馬を育てる勇敢な男 (1 図)

イ) 医学に興味をもった少年が、大病院の先生になる (8 BM 図)

ウ) 永遠の若さを保ちつつ、眠り続ける少年 (12 M 図)

おとなとしての成熟を拒否しつつも、誇大な自己像を夢想しているらしいことがうかがわれる。

また、性別同一性の混乱や女性との同一視をうかがわせる反応として、次の 2 つの反応が目される。

エ) 目の不自由な女の子 (5 図)

オ) 母や兄といっしょに暮らす私 (=妹) (10 図)

(3) 家族・家庭像

ア) 3 人家族。だんなは酒とギャンブルに耽り、母・息子は家を出る (3 BM 図)

イ) 両親は離婚し、兄は父に、妹は母に引き取られる (10 図)

ウ) 父はおらず、母も死に、少年は親戚に預けられる (13 B 図)

エ) 僕と嫁さんと息子と娘が、楽しく生活している (19 図)

オ) 戦争から復員して、身内を捜すのに苦労している私 (20 図)

家庭としてのまとまりが悪いこと、両親への不満や潜在的な敵意、仲のよい家族であってほしいと願っていることなどが、これらの空想から示唆される。

(4) 父親・男性像

ア) 酒とギャンブルに耽り、暴力を振るうだんなさん (3 BM 図)

イ) 皆から反対されているのに、それを知らず、楽しく暮らす大統領 (7 BM 図)

家族から孤立しているのに、それに気づかない暴君的な父親像が示唆される。また、父親の死が語られており、そうした空想は、父親への屈折した敵意を示唆するものであらうと思われる。それらは、次のような反応である。

ウ) 両親が離婚後、父親は死ぬ (10 図)

エ) 少年に催眠術をかけた催眠術師は死ぬ (12 M 図)

オ) 少年の父は既にないない (13 B 図)

(5) 母親・女性像

ア) 息子といっしょに死のうとする母 (3 BM 図)

イ) 息子と共に家を出て、ふるさとへ帰る母 (3 BM 図)

- ウ)「あなたのことを忘れない」と言い残して死ぬ母(6 BM 図)
- エ) 母の死後、母のそばを離れまいと決心する息子(6 BM 図)
- オ) 父の死後、母と兄と私は再会し、3人で楽しく暮らす(10 図)
- カ) 少年が生まれると同時に母が死んだ(13 B 図)

これらの空想は、母・息子の強い一体感や共生的な依存関係を暗示するようである。

(6) 性愛的主題・異性関係

異性関係の連想が生じやすい10 図では、「兄と妹の抱擁」が着想された。また、5 図では、女の子と男の子が楽しく遊ぶ話が語られた。いずれも、男女の性愛的な色彩が否認されている。

最も性愛的な空想を生じやすい13 MF 図では、セックスの話は全く語られず、女性に睡眠薬を飲ませて殺害し、自分も後追い自殺する男の話になっている。おそらくは、性をめぐる罪悪感や自罰(自己破壊)欲求が潜在しているのであろう。14 図に登場する「15年の刑期を終えて刑務所から出所し、奥さんに謝る」という男の物語も、それと関連していよう。

(7) その他の特徴

8 BM 図における「「麻酔も使わず、料理をするように腹を切る」という冷情的空想が注目される。この事例では、1 図で「バイオリンが壊れる」、11 図で「大地震で人々が死ぬ」、13 MF 図で「女を睡眠薬で殺し、自分も後追い自殺する」、20 図で「戦争」といった反応が出ており、自我によって統制がむづかしい未分化な攻撃衝動を潜在させていることが、強くうかがわれる。

第4節 図版ごとの考察

本節では、主要図版のうちの8枚を取り上げ、それぞれ図版ごとに、5つの事例が語った空想物語の異同を吟味しつつ、各事例の人格上の問題点の差異についての考察を深めたい。

表4-1は、1 図における反応をまとめたものである。ここで精神分析的な観点から、「バイオリンを弾きこなす」ことは「性を受け入れる」ことを象徴すると仮説すれば、いずれの事例も、その年齢なりに性を受け入れることができず、性衝動を自我によって統制することに失敗しているといっていよう。

去勢不安を伴うことをうかがわせるものは、事例3(目が見えない少年)と、事例4(大事な弓をなくす少年)である。事例5は、バイオリンを壊してしまう少年であり、破壊的(あるいは、自己破壊的?)な衝動を潜在させているようである。

性をめぐる劣位感・不全感を、万能感的な空想で否認しようとしているものは、事例1(天才バイオリニストになりたい少年)と、事例3(ベートーベンみたいになりたい少年)である。

表 4-1 1 図における反応のまとめ

事例番号 (年齢)	T A T 反 応 の 要 約
事例 1 (16 歳)	バイオリンが弾けなくて、悩んでいる。 将来は、天才バイオリニストになりたい。
事例 2 (16 歳)	父にバイオリンを贈られたが、弾く自信がなく、悩んでいる。 親からは「バイオリニストになれ」と、言われている。
事例 3 (17 歳)	バイオリンが、いつまでも弾けず、悩んでいる自分。 目が見えなくても、ベートーベンみたいに有名人になりたい。
事例 4 (17 歳)	明日はバイオリンの発表会なのに、大事な弓と楽譜をなくした。 追い打ちをかけるように、両親が交通事故で入院する。
事例 5 (18 歳)	調子の悪いバイオリンでコンクールに出場し、失敗する。 次の大会に向けて練習するが、バイオリンが壊れてしまう。

表 4-2 は、2 図における反応をまとめたものである。いずれの事例も、3 人の登場人物を関連づけることができず、対人関係能力の拙劣さがうかがわれる。

事例 3 だけは、女性の妊娠に言及しており、性・心理的に他の事例よりは発達していると思われる。ちなみに、この事例だけが被害者を自宅内まで誘引し、わいせつ行為時に射精に至っている。

事例 4 の空想で、主人公は凶器であるナイフの隠し場所に腐心している。1 図における「弓をなくした」という空想と関連するようである。ナイフや弓はペニスを象徴しているようでもあるが、うまく意味づけできない。

表 4-2 2 図における反応のまとめ

事例番号 (年齢)	T A T 反 応 の 要 約
事例 1 (16 歳)	淋しそうな、この世の終わりという顔をしている。 3 人は、他人どうし。
事例 2 (16 歳)	本を持った女の人。畑仕事をする男の人。 ただ空を見ているおばさん。(3 人の関係は語られない)
事例 3 (17 歳)	畑仕事に熱中する男。本を読もうとしている女。 妊娠して空を眺めているおばさん。(3 人の関係は語られない)
事例 4 (17 歳)	若いお嬢さんは、いじめの仕返しに、ある男性を殺した。 凶器のナイフを本の中に隠し、凶器を埋める場所を探している。 右手の女性は、犯行を見ていたが、警察に言わず、女を逃がす。 昔、その女性も、若い女と同じことをしたから、黙っていた。
事例 5 (18 歳)	勇敢な男が、ひとりで家を建て、畑を耕し、馬を育てた。 女性が来て、それを本にして出版。本はベストセラーになる。

表 4-3 は、6 BM 図における反応のまとめである。この図版は、母・息子図版とも呼ばれ、エディプス・コンプレックスをめぐる空想を生じやすい図版である。事例 2 と事例 5 において、そうした空想が語られている。これら 2 例では、母・息子の強い依存・共生的な関係を断ち切ろうとするあがきが、性非行に結びついていることが考えられる。

事例 4 は、わざわざ銀行強盗に銃で撃たれて死ぬ友人を導入して、三角関係の物語に仕立てて

いる。これをどのように解釈してよいのか、筆者には分からない。いずれにせよ、この事例は、2図でもナイフによる殺害を語っており、攻撃性の問題が推測される。

表4-3 6 BM 図における反応のまとめ

事例番号 (年齢)	T A T 反 応 の 要 約
事例1 (16歳)	けんかをした後、ふたりともむすっとしている夫婦。
事例2 (16歳)	普通に生活していた親子。男は仕事か結婚かで親から離れることになったが、それを諦めて、おばあさんと一緒に暮らす。
事例3 (17歳)	女主人は悪い病気で入院中の息子を必死で看病する。 息子は死に、女主人も後を追うように死ぬ。
事例4 (17歳)	仲の良い女性と男性が友人の葬式にきた。3人は仲良かった。 友人は、銀行強盗に銃で撃たれて、殺されたのだ。 男性と女性は、死んだ友人のために、結婚する。
事例5 (18歳)	親子がいた。外国にいた息子が帰ると、老齢の母は死んでいた。 息子は、二度と、母の許を離れまいと決心する。

表4-4は、7 BM 図における反応のまとめである。この図版のねらいは、父・息子関係を探ることにあるとされるが、そうであるとすると、事例2以外の反応は、いずれも父・息子関係の悪いことを示唆するといえよう。事例4と事例5の父親像は、かなり暴君的なものでもあるようだ。これら2例においては、暴君的な父親像を取り入れたことが、幼児に対する支配的・一方的な強制わいせつ行為と関連していることが考えられる。

表4-4 7 BM 図における反応のまとめ

事例番号 (年齢)	T A T 反 応 の 要 約
事例1 (16歳)	電気を暗くした部屋で、ふたりで悪事の密談をしている。
事例2 (16歳)	おじいさんと若い人が親子。普通の生活をしていたが、何かこまったことが起きて、どうしようかと相談している。
事例3 (17歳)	探偵と警官が、宝石どろぼうを捕まえる相談をしている。 兄と弟が、死んだお母さんの墓を作る相談をしている。
事例4 (17歳)	会議で、A 首相と B 首相が話し合っている。 C 首相が軍拡を提案したので、ふたりの首相は反対する。 でも、C 首相は戦争をしかけようとして、国内で軍拡を進める。
事例5 (18歳)	大統領を決める会議。すごいけちが大統領になる。 その大統領は、皆に反対されるが、気にせず、楽しく暮らす。

表4-5は、10 図における反応をまとめたものである。この図版は、暗闇の中で男女と見られるふたりが抱擁している場面であり、性的な主題が語られやすい図版であるが、そうした空想を語ることができたのは、事例1, 2, 4である。

事例3は、別離の物語で、これは異性との関わりをめぐる不安や回避傾向を示唆するのかもしれない。

事例 5 では、妹（＝私）と兄の抱擁とされ、性愛的なニュアンスを回避している。また、妹が被験者の分身となっていることから、性別同一性の問題も暗示される。

表 4-5 10 図における反応のまとめ

事例番号 (年齢)	T A T 反 応 の 要 約
事例 1 (16 歳)	結婚の約束をしたふたりの密会。 両親は、結婚に反対だが、結局は了解する。
事例 2 (16 歳)	彼と彼女がばったりと出会った。抱き合って、「これから、ふたりで生きていこう」と、うれしがっている。
事例 3 (17 歳)	男女がお別れに抱き合っている。男は、町へ金を稼ぎに行く。 男は、技術を身につける。
事例 4 (17 歳)	パーティの主催者の息子が、美人を見つけ、ダンスを踊っている。 1 年後に、ふたりは結婚する。
事例 5 (18 歳)	両親が離婚した。父に引き取られた私は、父の死後、兄と再会。 その後、母と兄と私（＝妹）は、楽しく暮らす。

表 4-6 は、11 図における反応のまとめである。この図版は、心のやや深層の主題を賦活させることをねらった図版である。

事例 1 における竜は、前節で考察したように、ユング心理学でいう太母（グレート・マザー）の象徴とも思われ、そのように考えてみると、この事例は、早幼児期にかなり過酷な母子体験をしていることが想像される。いずれにせよ、女性に対する根深い不信や敵意、それにまつわる基底的な不安を潜在させていることが推察され、そうした人格の歪みが、性非行に関係していることが考えられる。

事例 3 は、典型的な英雄物語である。そのことから、この事例の性非行は、男らしさを獲得するための象徴的な行為であったことが推察される。

事例 4 の反応からは、暴君的な父親像が想像される。そうした暴君的な父親との同一視が、攻撃的な性非行に結びついていることが推測される。

事例 5 は、「吊り橋がつぶれた」と空想している。この事例は、1 図においても「バイオリンが壊れた」と空想している。自我によって統制されない未分化な衝動性や破壊性を潜在させていることが考えられる。

表 4-6 11 図における反応のまとめ

事例番号 (年齢)	T A T 反 応 の 要 約
事例 1 (16 歳)	滝の上に竜がいる。人間は竜に食べられてしまう。
事例 2 (16 歳)	崖崩れで、道が通れない。どこへ行くか分からない道に行く。 でも、最終的には、町にたどり着く。
事例 3 (17 歳)	智恵と勇気で、竜を退治する。竜のまぶたから、「竜の涙」を取り出す。「竜の涙」は勇者の印で、悪魔や病気を追い払う力がある。

事 例 4 (17 歳)	市民を弾圧する皇帝に対する市民の怒りが爆発した。 皇帝は、城の抜け道を使って、他国へ脱出しようとしている。 しかし、追手が来て、皇帝は殺される。
事 例 5 (18 歳)	きれいな滝があり、吊り橋がかかっていた。大地震が来た。 崖は崩れ、橋は落ち、人々が死んだ。 それ以来、地震のあった日には、亡霊が現れる。

表 4-7 は、13 B 図における反応をまとめたものである。いずれも、性非行少年の孤独で淋しい内面をよく反映した空想であるといつてよい。

表 4-7 13 B 図における反応のまとめ

事例番号 (年齢)	T A T 反 応 の 要 約
事 例 1 (16 歳)	真っ暗な家の中で、淋しくだれかを待っている。 待ちくたびれて、死んでしまう。
事 例 2 (16 歳)	普通の生活をしていただけで、戦争で、生活が一変する。 指をくわえて、悲しそうな顔をしている。
事 例 3 (17 歳)	(施行せず)
事 例 4 (17 歳)	両親のいない少年は、皆から、のけ者にされている。 少年は、仲間だまされいているとも知らず、坐っている。
事 例 5 (18 歳)	少年が生まれるとともに、母は死に、父も既に死んでいた。 少年は親戚に預けられた。遊び仲間もなく、ひとりぼっちだ。

表 4-8 は、13 MF 図における反応のまとめである。この図版は TAT 31 枚中、もっとも性愛的な空想を生じやすい図版である。

事例 1 と事例 5 では、性愛的な主題のかわりに殺人物話が語られた。抑圧された性的な衝動が異性に対する攻撃行動に転化しやすいことが推測される。この種の反応は、性犯罪者にしばしば見られるものである。事例 5 では、性と攻撃性にまつわる自罰・自己破壊の傾向もうかがわれる。

事例 2 では、1 次過程的には、性の主題が潜在するのであろうが、それは言語化されなかったであろう。性の主題は自我にとってあまりに不安が大きいため、否認されたのであろうと思われる。

事例 3 では、「女の部屋に、メッセージと電話番号を書き置きして出ていく」といった着想に、異性ととのつながりを求めている心情がよく表現されている。性・心理的には、もっとも発達している事例であるといつてよい。ちなみに、これらの 5 例のうち、事例 3 だけが、2 図における女性の妊娠に着目しており、かつ本件行為時にも射精を伴っている。

表 4-8 13 MF 図における反応のまとめ

事例番号 (年齢)	T A T 反 応 の 要 約
事 例 1 (16 歳)	女を男が絞め殺す。男は逃亡するが、最後は警察に捕まる。

齊藤：強制わいせつ非行少年の TAT 反応の特徴に関する一考察

事 例 2 (16 歳)	昨夜のことは酔っぱらって覚えていない。目を覚ますと、見たこともない女の部屋にいたので、びっくりした。服を着て、家を出る。
事 例 3 (17 歳)	男と女がドライブに行き、ご飯を食べて、一夜を過ごす。 男は、部屋に、メッセージと電話番号を書き置いて、出て行く。
事 例 4 (17 歳)	(施行せず)
事 例 5 (18 歳)	なぜか死ぬことになり、僕は彼女に睡眠薬を飲ませて、殺した。 数分後、僕も彼女の後を追って死んだ。

[付 記]

ここで使用した事例は、自験例のほか、各地の少年鑑別所に勤務する心理技官の方々から提供された事例も含まれている。事例を提供していただいた各技官のお名前は掲げないが、ここに感謝の意を表します。

文 献

- 堀内 守 1991 法的立場から見た性の問題行動 黒川義和編「実践・問題行動教育体系第 10 巻・性の問題行動」所収 pp. 27-37 開隆堂
- 法務総合研究所 1996 平成 8 年版犯罪白書 大蔵省印刷局
- 大川 力 1975 性犯罪 安香 宏・麦島文夫編「犯罪心理学」所収 pp. 283-294 有斐閣
- 齊藤文夫 1979 ある殺人犯の TAT 事例 河合隼雄他編「臨床心理ケース研究 2」所収 pp. 189-204 誠信書房
- 齊藤文夫 1995 a TAT の 8 BM 図において冷情的攻撃空想を語る非行少年の諸特徴 犯罪心理学研究 33 巻 1 号 pp. 29-40
- 齊藤文夫 1995 b TAT による非行少年の攻撃性に関する一考察 犯罪学雑誌 61 巻 6 号 pp. 235-247
- 齊藤文夫 1997 幼児わいせつを犯した非行少年 2 事例の TAT 反応についての一考察 追手門学院大学人間学部紀要 4 号 pp. 15-34
- 清水 信・山岡一信 1974 異常心理と犯罪心理 東京法令出版

1997 年 9 月 17 日 受理